

【22\_037/技術系メルマガ】『型』とは、自分にとっての『勝ちやすい』パターンである

〇〇さん

こんにちは、クロガキ(クロ)です。

今回は、僕が癖のように言い続けている『型』とは本質的になんなのか？

という疑問について、言語化を試みようと思います(笑)

これを改めて一言で言い表そうとすると、かなり抽象的で表現の難しい概念だなと

今更ながら自分でも思ったのがキッカケなのですが。。

現状の僕が思いつくレベルでなるべく簡潔に整理して説明しようと思うので

是非最後までお付き合いください。

□  
■ 『型』とは自分にとっての『勝ちやすい』パターンをイメージ化したものである

一言で言ってしまうえば、既にサブタイトルに答えが出てしまっているのですが

当然これではイメージが湧かないと思いますので、もう少し具体例を示しながら説明しますね。

これは、深堀して考えると『検証のやり方』とも関わりがある話になってきますが

ゼロベースから過去チャート検証を始める時、最初に行う検証ステップとなるのは

【プライスが伸びるところを観察すること】です。

最初は、明確な値動きのイメージも無い中でチャートを見るのでなかなかピンときませんが

時間をかけてチャートを見ていくと、徐々に見えてくるものがあります。

それが、「これ、何度も同じようなパターンで動いているなあ」と認識できる

値動きの“既視感”です。

この既視感というのは、心理学用語ではまた少し違う意味合いになるのですが

ここでは「確かに見た覚えがあるが、いつ、何処でだったかな？」というイメージだと考えて下さい。

多分過去検証よりも、実際に動いているチャートでこのような経験をした事がある人は多いのではないかと思います

「あー、なんかこの動き、下行きそうだなあ。。。」  
「あ！ やっぱし下行った！ ヤバい乗り遅れる前に入らなきゃ！」  
「うわー！ 担がれた！ やっぱり飛び乗っちゃいけなかったんだ 損切り！」  
「・・・いや下行くんかーい！！！」

・・・どうでしょう？ 身に覚え、ありませんか？（笑）

いやいや、今日は「飛びつきエントリーはダメ」って話ではなく、“既視感”の話です。

大事なのは一番最初（「あー、なんかこの動き、下行きそうだなあ。。。」）の部分。

この人は、何故そう思ったのでしょうか？

それは、意識の程度の差はもちろんありますが、少なからず過去に似たような値動きを見た

「記憶」がおぼろげにあったからです。

この『なんか以前にも同じような動きを見た気がする』という“既視感”こそが、まさに『型』の原型であり

これをより具体的なイメージに描き起こすことで、実際にその人の『型』として機能するようになるのです。

とはいえ、このイメージをゼロベースから作るのは非常に難しいですし、膨大な時間を要します。

そこで、僕がよく言う『短期足MAの収縮・発散』とか、ガッキーの『主要ラインブレイク後の、短期トレンドラインブレイク』

といった、既に言語・イメージ化されている『型』の検証からスタートさせることを提案しているのです。

## ■ 『MAの収縮・発散』のイメージ化

では、僕が今主要武器としている『MAの収縮・発散』というのは  
チャートにおけるどんな場面を狙う『イメージ』なのか？を考えてみます。

目線を決めた後に狙う波のイメージとして、以下の模式図のような捉え方をしています。

### ▼MAの収縮・発散によるエントリーイメージ▼

[https://kuro-gaki.com/muhai\\_saisoku/others/2022-02-06.png](https://kuro-gaki.com/muhai_saisoku/others/2022-02-06.png)

要は、「短期的な揉み合い」によって(MAの)平均値が揃う事によって『収縮』が起こり

そこからパターン形成を経てプライスが大きく動く＝(MAの)平均値が『発散』する瞬間を狙ってエントリーする

というのが、僕のトレードイメージです。ショートの場合は、この逆のイメージで行うだけです。

もちろん、この『MAの収縮・発散』からプライスが伸びる値動きのイメージを

「成程！これは確かに何度も見るパターンだね！」と納得できる人は、ドンドンそのイメージを

自分の中で明確化する為に検証を進めていくことを勧めますが

中には、正直あまりピンとこない・・・という人もいます。

それは、その人の考え方のクセや性格なども影響したりするので、“既視感”として感じ取れる人と、そうでない人の個人差が出るからです。

この辺の脳の「クセ」があるからこそ、『型』との相性というのが存在すると考えています。

いずれにせよ、『安定して勝ちやすい』トレードスタイルを創るには

まず、1つ確立された『型』を作れるかどうか懸かっています。

今回、『型』のイメージという抽象概念の具体化を試みましたが、今回のメールを読んで

今後の検証、『型』やトレードスタイル創りに対する考え方に、良い変化のキッカケが提供出来れば嬉しく思います。